

令和6年度 学校評価（職員）について【概要報告】

県立鹿屋特別支援学校 学校評価係

1 実施期間

第1回評価 令和6年7月17日（水）～7月24日（水）

第2回評価 令和6年12月18日（水）～令和7年1月10日（金）

2 アンケート対象者

学部	事務部					小	中	高	合計
	校長	教頭	事務長	養護教諭	栄養教諭				
人数	1	2	1	2	1	43	33	35	118

3 実施方法

- ・ web 方式（Google フォーム）
- ・ URL は全職員が参加している「Google Classroom」と「Microsoft Teams」にて配信※¹
- ・ Google フォームは「メールアドレスを収集しない」、ログインを「鹿児島県教育庁のユーザーに限定」、「回答を1回に制限する」で設定を行った。

※¹ グループウェア（校内掲示板）では実施のお知らせのみ配信した。QR コードは校務用タブレットが全職員に整備されていないため、使用しなかった。

4 回答率

第1回 99%（117/118名）

第2回 96%（113/118名）

5 評価基準

評価4：十分達成できている（そう思う）	評価3：概ね達成できている（ややそう思う）
評価2：やや不十分である（あまり思わない）	評価1：不十分である（思わない）

6 分析方法

評価値の平均値※²を出して、以下の基準にて、成果・課題・努力項目と分類することとした。

評価基準		備考
成果※ ³	平均値 3.30 以上	≒評価4が30%いる場合
課題※ ⁴	平均値 3.00 未満	≒評価2が20%いる場合
努力項目	評価1・2の割合の合計が10%以上	「課題」には挙げられなかったが、目標達成に向けて取組が必要なもの

※² 平均値とは、下記の式で算出した数値を表す。

$$\frac{(\text{評価4} \times \text{評価者数} + \text{評価3} \times \text{評価者数} + \text{評価2} \times \text{評価者数} + \text{評価1} \times \text{評価者数})}{\text{総評価者数}}$$

※³ 成果は、評価「3（概ね達成）」と評価「4（十分達成）」の間で検討し、昨年度の基準値「評価4の割合が33.3%以上」を参考に設定した。

※⁴ 課題は、評価「3（概ね達成）」という数値を下回るという考え方から上記のように設定した。

7 第1回結果

「4 分析方法」に従い、成果は**赤太字**、課題は**青太字**で示してある。

分野	項目	視点	質問	小平均	中平均	高平均	全体平均
安心・安全	1	個	児童生徒一人一人を大切にした人権教育、生徒指導の充実により、元気な心を育むことができたか。	3.19	3.33	3.26	3.25
	2	個	家庭等と連携し、児童生徒の健康の維持、増進と感染症予防対策の徹底を図ることができたか。	3.23	3.36	3.38	3.31
	3	個	全教育活動をととして、児童生徒の健康や安全、防災に関する知識、技能を育てることができたか。	3.00	3.30	3.12	3.12
	4	全	医療的ケアを安全に実施するため、信頼関係に基づいた校内体制の整備を行うことができたか。	3.12	3.24	3.15	3.18
	5	全	施設設備の安全点検や管理の徹底、「ヒヤリ・ハット」の共有と事故防止対策を行うことができたか。	3.28	3.33	3.24	3.26
	6	全	実効性のある危機管理マニュアルの改善と職員の危機管理意識の高揚を図ることができたか。	3.02	3.12	3.12	3.08
指導・支援	7	個	個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して、一貫性・系統性の充実を図ることができたか。	3.12	3.18	3.03	3.08
	8	全	一人一人の「生きる力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができたか。	3.00	3.06	3.00	3.02
	9	個	I C Tの活用や指導方法等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができたか。	2.95	3.06	3.12	3.03
	10	個	一人一人の学びの姿や成果を評価し、より良い授業や教育課程のための改善につなげることができたか。	3.12	3.12	3.06	3.09
	11	個	一人一人の卒業後の生活を見据え、計画的、組織的なキャリア教育、進路指導の充実を図ることができたか。	2.81	3.00	3.18	2.98
	12	個	家庭等と連携して、気持ちのよいあいさつや基本的な生活習慣の確立に取り組むことができたか。	3.44	3.24	3.29	3.32
地域連携	13	個	児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。	2.81	3.15	3.00	2.96
	14	個	児童生徒の社会参加の経験やコミュニケーション力を育む交流及び共同学習の充実を図ることができたか。	3.40	3.24	3.09	3.24
	15	全	地域の特別支援教育に関する相談支援や情報提供の充実、適切な就学相談の実施に努めることができたか。	3.23	3.21	3.18	3.20
	16	全	本校の教育や、特別支援教育の理解啓発のために、積極的な情報発信を行うことができたか。	3.05	3.12	3.15	3.10
	17	全	児童生徒の教育や将来の生活を支える、医療、福祉、労働等の関係機関との連携協力を図ることができたか。	3.21	3.27	3.29	3.25
	18	全	学校評価、学校関係者評価委員会の結果を基に、学校運営上の課題改善に努めることができたか。	3.05	3.12	3.12	3.11
研修・服務	19	個	かごしま県教員等育成指標に示された資質の向上を目指し、積極的な自己研修に取り組むことができたか。	2.98	3.00	3.12	3.03
	20	全	特別支援教育の専門性や授業力の向上のため、日々の実践的な活気ある学び合いを推進することができたか。	3.07	3.09	3.09	3.09
	21	個	I C Tを活用した授業づくりや業務改善を推進するための研修に取り組むことができたか。	3.19	3.30	3.26	3.22
	22	個	体罰、ハラスメント、交通事故・違反等の防止に関するチェックリストや服務研修を行うことができたか。	3.51	3.58	3.50	3.52
	23	全	行事や会議、校務分掌組織の見直し、校務支援システムの活用、教材教具の共有等に取り組むことができたか。	3.07	2.94	2.97	3.02
	24	全	教職員一人一人の知識、経験等を生かし、同僚性、協働性を発揮する職場作りを行うことができたか。	3.09	3.21	3.26	3.19

8 「学校評価」を受けての改善策等の検討・共通理解

第1回「学校評価アンケート」で各学部での結果※⁵から評価が低かった項目について、後期の指導につなげられるように検討を行った。

以下に、小・中学部で改善策等を検討して共通理解を図った内容について掲載している。

今回は、学部ごとの結果を踏まえて、学部で改善策等を検討して共通理解を図ったが、それぞれの項目について、関係する係においても、今後の業務において意識した取組を行っていききたい。

※5 各学部、「2」以下の項目及び「評価1・2」の割合が高い（10%以上）項目

小学部：項目9（2.95，16%） 項目11（2.81，21%） 項目13（2.81，21%）

中学部：項目9（3.06，18%）

(1) 小学部（各学年部で話し合ったこと）

項目9	ICTの活用や指導方法等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができたか。
○ パワーポイントやキーノートなど学習内容提示や視覚支援等で様々なアプリ等を使用しており、学年部等でデータ共有もされている。また、算数の図形や国語の問題文作り、図工などの各教科等で、写真やアプリの活用をしている学級も多い。ただ、ICTに苦手意識のある職員もいたり、「ICTを活用した『深い学び』の授業実践をしているか」と問われると判断に迷う職員もいたりして、低い評価になっている部分もある。今後、ICT研修に加え、学部でも、各学級での実践例を紹介する機会を作るなどして、職員や子供が使えるものを増やしていく。 ○ 課題として、タブレットへのこだわりが強い子供もいたり、YouTube視聴が主になったりなど活用の仕方については考えたい。低学年の発達年齢に合わせた具体物中心の学習も大切にしたい。 ○ 授業で使用するキーノート等のデータをクラウドに保存し、共有できないか→ICT係を中心に検討する。	
項目11	一人一人の卒業後の生活を見据え、計画的、組織的なキャリア教育、進路指導の充実を図ることができたか。
○ 小学部段階でのキャリア教育・進路指導として、「あいさつ」、「基本的な生活習慣の確立」の他にも、「自分でできることを増やす」、「興味関心の拡大（好きなことを増やす）」、「自己決定・選択する力」、「自分の思いを相手に伝える」などが考えられ、普段から意識して取り組んでいる。また、意見の中には、「低学年のうちに好きなことを見つけてとことんやってみることで自己肯定感（自分のことを好きになる）を高めることにつながる」という意見、授業の片付けや係の仕事、給食当番、委員会活動の充実も進路指導につながっているという意見、将来、卒業後よりよく生きるためにその子にとって何が必要か考えることがキャリア教育・進路指導につながるといった意見もある。 →小学部におけるキャリア教育や進路指導について、進路係に相談し、共通理解する。 ○ 個々に応じたキャリア教育は取り組んでいるが「計画的・組織的」と問われると、評価が難しいという意見や評価項目をより考えやすい文言に変えてもよいのではないか、質問内容の共通理解ができると評価が変わるかもしれないといった意見が出された。	
項目13	児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。
○ 1学期は、実態から校外に出掛ける機会をもてなかった学年・学級もあるため、低い評価になっていると思われるが、2学期は、わくわく体験学習や宿泊学習、修学旅行、一日遠足などの校外行事に加え、学級・学年単位での買い物学習等で地域の資源を活用する機会が増えるので、改善が見込まれる。 ○ 少人数ではあるが、地域の行事への参加や地域の施設利用を行っている。また、ゲストティーチャー（過去に読み聞かせや楽器演奏等）を呼ぶことで子供たちが様々な人との関わる機会となり、活用にもつながるため、考えていく。同時に他学部の先生方の専門性を生かした校内の人的活用も進めていきたい。	

(2) 中学部（各学年部等で話し合ったこと）

学年	項目 9：ICT の活用や指導方法等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができたか。
1 年	- ICT の捉え方として、YouTube の視聴、タブレット端末でのアプリの使用、PowerPoint での授業などを含めると、十分に ICT を活用できている。 - ICT を活用して授業を行う中で、生徒同士で話し合い活動などでの関わりは難しいところがあるが、教師対生徒の関わりは十分にあり、対話的な学びができている。 - ICT 活用の上で、「主体的・対話的で深い学び」の、具体的な姿の指標があれば、分かりやすく、評価もしやすい。 - ICT 活用や指導方法等を工夫していくために、教材研究の時間を確保してほしい。 - 教員にもタブレット端末が一人 1 台ずつあれば良い。 - タブレット端末を使用する際にタッチペンがあると学習を進めやすい。
2 年	「対話的」という言葉を難しく捉えすぎている。「コミュニケーションを図る」と捉えると、もっと主体的・対話的な活動はあるのではないだろうか。 「ICT」と前に言葉がきているため、評価を下げてつけている感じがする。ICT ありきではないということを共通理解したうえで、伝え合うために ICT を活用していけば良いのではないか。 - 生徒の興味・関心に近づけた授業設定や、生徒の実態に応じた ICT の活用の仕方を考えていく - きっかけを教師が最初に設定すると、それを機会に生徒どうしのコミュニケーションも深まるのではないだろうか。 - 今後どのような指導をしたら良いか、主体的・対話的な「実践」ができるか、どんな「実践事例」があるか話し合うことで今後に活かせるのではないか。
3 年	評価項目について、難しく考えすぎている。ICT 活用については、ロイロノート・スクールの活用をしっかりとやっている。国語、数学で積極的に使ってみたところ、プリント配布の煩わしさがなくなった。授業はロイロノート・スクール、宿題は紙で取り組むなど、活用を今後も進めていけると良い。
副担	評価項目は、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うために、ICT の活用をしたり、指導方法を工夫したりするということと捉えたい。ICT の活用だけに限らず、他のコンテンツ（TV 教材等）や教材・教具の活用、体験的な学びを取り入れたり、教師の得意な特技の発揮、多様な学びの手段を工夫し深めたりすることで、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践につなげていけるのではないか。
○ ICT の捉え方を YouTube の視聴、タブレット端末でのアプリ（ロイロノート・スクール等）の使用、PowerPoint での授業など含めると、十分活用はできている。 ○ 評価項目を難しく考えず、先頭にある「ICT」だけをありきと捉えず、指導方法としてはそれだけではない（TV 教材等や教材・教具の活用、体験的な学びの取り入れ、教師の得意な特技の発揮、多様な学びの手段を工夫し深めるなど）というように考えると、評価も上がっていくと思う。 ○ 「対話的」は生徒同士だけでなく、対教師も含め考えると、コミュニケーションはできている。また、「主体的・対話的で深い学び」の、具体的な姿の指標もあると良い。 ○ ICT 活用について、教師のタブレット端末一人 1 台やタッチペンなど周辺機器の導入等があると活用がさらに進む。そして、教材研究の時間の確保もしていけると良い。	

9 第2回結果

(1) 平均値

「4 分析方法」に従い、成果は**赤太字**、課題は**青太字**で示してある。

分野	項目	視点	質問	小平均	中平均	高平均	全体平均	第1回との差
安心・安全	1	個	児童生徒一人一人を大切にしたい人権教育、生徒指導の充実により、元気な心を育むことができたか。	3.36	3.33	3.29	3.33	+0.08
	2	個	家庭等と連携し、児童生徒の健康の維持、増進と感染症予防対策の徹底を図ることができたか。	3.38	3.37	3.38	3.35	+0.04
	3	個	全教育活動をととして、児童生徒の健康や安全、防災に関する知識、技能を育てることができたか。	3.07	3.17	3.12	3.10	-0.02
	4	全	医療的ケアを安全に実施するため、信頼関係に基づいた校内体制の整備を行うことができたか。	3.05	3.23	3.21	3.14	-0.04
	5	全	施設設備の安全点検や管理の徹底、「ヒヤリ・ハット」の共有と事故防止対策を行うことができたか。	3.29	3.23	3.29	3.26	-0.01
	6	全	実効性のある危機管理マニュアルの改善と職員の危機管理意識の高揚を図ることができたか。	3.07	2.93	3.09	3.04	-0.04
指導・支援	7	個	個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して、一貫性・系統性の充実を図ることができたか。	3.07	3.10	3.09	3.05	-0.02
	8	全	一人一人の「生きる力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができたか。	2.93	3.07	3.00	2.98	-0.03
	9	個	I C Tの活用や指導方法等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができたか。	2.98	3.17	3.18	3.05	+0.03
	10	個	一人一人の学びの姿や成果を評価し、より良い授業や教育課程のための改善につなげることができたか。	3.19	3.07	3.18	3.11	+0.01
	11	個	一人一人の卒業後の生活を見据え、計画的、組織的なキャリア教育、進路指導の充実を図ることができたか。	2.93	3.07	3.29	3.06	+0.08
	12	個	家庭等と連携して、気持ちのよいあいさつや基本的な生活習慣の確立に取り組むことができたか。	3.48	3.37	3.21	3.35	+0.03
地域連携	13	個	児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。	2.90	3.13	3.09	3.02	+0.06
	14	個	児童生徒の社会参加の経験やコミュニケーション力を育む交流及び共同学習の充実を図ることができたか。	3.24	3.17	3.15	3.16	-0.08
	15	全	地域の特別支援教育に関する相談支援や情報提供の充実、適切な就学相談の実施に努めることができたか。	3.05	3.30	3.21	3.18	-0.02
	16	全	本校の教育や、特別支援教育の理解啓発のために、積極的な情報発信を行うことができたか。	2.93	3.07	3.24	3.07	-0.03
	17	全	児童生徒の教育や将来の生活を支える、医療、福祉、労働等の関係機関との連携協力を図ることができたか。	3.10	3.13	3.29	3.19	-0.06
	18	全	学校評価、学校関係者評価委員会の結果を基に、学校運営上の課題改善に努めることができたか。	2.93	3.03	3.29	3.07	-0.04
研修・服務	19	個	かごしま県教員等育成指標に示された資質の向上を目指し、積極的な自己研修に取り組むことができたか。	2.98	3.10	3.18	3.07	+0.05
	20	全	特別支援教育の専門性や授業力の向上のため、日々の実践的な活ある学び合いを推進することができたか。	3.07	3.07	3.26	3.12	+0.03
	21	個	I C Tを活用した授業づくりや業務改善を推進するための研修に取り組むことができたか。	3.14	3.10	3.24	3.14	-0.08
	22	個	体罰、ハラスメント、交通事故・違反等の防止に関するチェックリストや服務研修を行うことができたか。	3.62	3.50	3.65	3.60	+0.08
	23	全	行事や会議、校務分掌組織の見直し、校務支援システムの活用、教材教具の共有等に取り組むことができたか。	3.05	2.83	3.21	3.06	+0.04
	24	全	教職員一人一人の知識、経験等を生かし、同僚性、協働性を発揮する職場作りを行うことができたか。	2.98	3.07	3.24	3.11	-0.08

(2) 「評価１・２」割合の合計

「４ 分析方法」に従い、努力項目は**赤太字**で示してある。

分野	項目	視点	質問	小割合	中割合	高割合	全体割合
安心・安全	1	個	児童生徒一人一人を大切に人権教育、生徒指導の充実により、元気な心を育むことができたか。	2%	0%	0%	1%
	2	個	家庭等と連携し、児童生徒の健康の維持、増進と感染症予防対策の徹底を図ることができたか。	5%	3%	3%	4%
	3	個	全教育活動をととして、児童生徒の健康や安全、防災に関する知識、技能を育てることができたか。	10%	7%	9%	9%
	4	全	医療的ケアを安全に実施するため、信頼関係に基づいた校内体制の整備を行うことができたか。	14%	10%	6%	11%
	5	全	施設設備の安全点検や管理の徹底、「ヒヤリ・ハット」の共有と事故防止対策を行うことができたか。	12%	10%	0%	9%
	6	全	実効性のある危機管理マニュアルの改善と職員の危機管理意識の高揚を図ることができたか。	12%	17%	12%	14%
指導・支援	7	個	個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して、一貫性・系統性の充実を図ることができたか。	10%	7%	9%	11%
	8	全	一人一人の「生きる力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができたか。	14%	7%	12%	12%
	9	個	I C Tの活用や指導方法等を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行うことができたか。	21%	17%	9%	19%
	10	個	一人一人の学びの姿や成果を評価し、より良い授業や教育課程のための改善につなげることができたか。	5%	3%	3%	6%
	11	個	一人一人の卒業後の生活を見据え、計画的、組織的なキャリア教育、進路指導の充実を図ることができたか。	19%	17%	3%	14%
	12	個	家庭等と連携して、気持ちのよいあいさつや基本的な生活習慣の確立に取り組むことができたか。	2%	0%	3%	2%
地域連携	13	個	児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。	17%	10%	18%	15%
	14	個	児童生徒の社会参加の経験やコミュニケーション力を育む交流及び共同学習の充実を図ることができたか。	10%	10%	15%	12%
	15	全	地域の特別支援教育に関する相談支援や情報提供の充実、適切な就学相談の実施に努めることができたか。	10%	3%	9%	9%
	16	全	本校の教育や、特別支援教育の理解啓発のために、積極的な情報発信を行うことができたか。	19%	7%	9%	12%
	17	全	児童生徒の教育や将来の生活を支える、医療、福祉、労働等の関係機関との連携協力を図ることができたか。	10%	0%	0%	4%
	18	全	学校評価、学校関係者評価委員会の結果を基に、学校運営上の課題改善に努めることができたか。	12%	10%	3%	9%
研修・服務	19	個	かごしま県教員等育成指標に示された資質の向上を目指し、積極的な自己研修に取り組むことができたか。	12%	0%	6%	7%
	20	全	特別支援教育の専門性や授業力の向上のため、日々の実践的な活気ある学び合いを推進することができたか。	10%	7%	0%	7%
	21	個	I C Tを活用した授業づくりや業務改善を推進するための研修に取り組むことができたか。	10%	13%	15%	13%
	22	個	体罰、ハラスメント、交通事故・違反等の防止に関するチェックリストや服務研修を行うことができたか。	0%	0%	0%	0%
	23	全	行事や会議、校務分掌組織の見直し、校務支援システムの活用、教材教具の共有等に取り組むことができたか。	19%	23%	9%	17%
	24	全	教職員一人一人の知識、経験等を生かし、同僚性、協働性を発揮する職場作りを行うことができたか。	21%	17%	12%	16%

10 達成状況や来年度へ向けた取組等

(1) 成果（平均値 3.30 以上）としての項目

全体的な成果としてあげられる項目は、**4つ**あった。

- ・ 項目 1（平均値：3.33）【評価の視点：個人】

児童生徒一人一人を大切にした人権教育、生徒指導の充実により、元気な心を育むことができたか。

- ・ 項目 2（平均値：3.35）【評価の視点：個人】

家庭等と連携し、児童生徒の健康の維持、増進と感染症予防対策の徹底を図ることができたか。

- ・ 項目 12（平均値：3.35）【評価の視点：個人】

家庭等と連携して、気持ちのよいあいさつや基本的な生活習慣の確立に取り組むことができたか。

- ・ 項目 22（平均値：3.60）【評価の視点：個人】

体罰、ハラスメント、交通事故・違反等の防止に関するチェックリストや服務研修を行うことができたか。

第1回のアンケートから項目1が増え、成果としての項目は4つに増えた。特に項目1と22については、第1回目との平均値の差が+0.08と他の項目と比較しても高かった。

項目2・12・22については、昨年度から引き続き成果として挙げられており、家庭や関係機関と連携しながら児童生徒の支援・指導を行うことができていると考えられる。

また、成果の4項目は全て評価の視点が「個人」であり、学校教育目標に向けて各職員が具体的にに取り組むことができていることを意味している。

さらに、第1回のアンケートで「課題」としてあがられた項目11・13については、今回は平均値3.00以上となり、各学部で改善策を実践できたことが大きく影響していると考えられる。（課題を改善につなげることができた）

(2) 課題（平均値 3.00 未満）としての項目

全体的な課題としてあげられる項目は、**1つ**であった。

- ・ 項目 8（平均値：2.97）【評価の視点：個人】

一人一人の「生きる力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができたか。

第1回のアンケートでは含まれていなかった項目8が課題としてあげられた。前回の平均値は3.02であり、小学部の平均値が前回より下がったことで、全体の平均値が3.00以下となった。ただし、評価1・2をつけた割合も全体で12%となっており、前回の8%を上回っている。一方「指導・支援」の分野では、全体的に数値が上昇しており、項目8以外の評価の視点が「個人」であることから、全体での取り組みにもつながっていると考えられる。

記述意見からは、振り返りや改善をする時間的余裕がないことや指導者として教員側の意識改善の必要性があげられている。また、第1回のアンケートからは「カリキュラム・マネジメント」という言葉が評価を難しくしている（分かりやすい表現がよい）との意見も出されており、質問文自体についても検討していきたい。さらに、本校において各教科で育む資質・能力をおさえ、効果的な指導場面や方法を確立していく必要性についても指摘されており、次年度以降も引き続き検討、改善につなげていきたい。

(3) 努力項目（評価１・２の割合の合計が 10%以上）

評価１・２の割合の合計が 10%以上に該当する項目は 12 あったが、全学部で 10%以上に該当する 3つの項目（項目 6・13・24）に絞り、努力項目として取り扱うことにした。（項目の焦点化を行った）

- ・ 項目 6（評価１・２の合計割合 14%）【評価の視点：全体】

実効性のある危機管理マニュアルの改善と職員の危機管理意識の高揚を図ることができたか。

- ・ 項目 13（評価１・２の合計割合 15%）【評価の視点：個人】

児童生徒の体験的で豊かな学びを目指して、地域の人的・物的資源の活用を図ることができたか。

- ・ 項目 24（評価１・２の合計割合 16%）【評価の視点：全体】

教職員一人一人の知識、経験等を生かし、同僚性、協働性を発揮する職場作りを行うことができたか。

第 1 回のアンケートでは含まれていなかった項目 6，13，24 が努力項目として該当した。第 1 回アンケートでは、小学部のみが 10%の割合に該当し、学部の検討事項として改善等に取り組んできたが、今回、全学部が 10%以上の割合に該当する結果となった。（全体の項目として捉える）また、記述意見からは評価の理由について述べられているものもあり、次年度以降も参考にしていきたい。

11 全体を通して

第 1 回と比較して「成果」項目が 1 つ増え、「課題」としてあげられていた 2 項目が「課題」に該当しなかったのは、第 1 回アンケートからの具体的な取組が有効であったと評価できる。また大まかな傾向として、個人の視点での評価が上昇し、全体での視点での評価が下降していた。

一方、新たな「課題」や「努力項目」も出てきたので、次年度からの参考にしながら、教育活動の工夫・改善のサイクルにつなげていきたい。

また、職員のアンケート回収率 100%を目標に取り組んできたが、個人を特定しない方法で web アンケートを実施したため、未回答者を特定できず、呼び掛けや期間延長など、回収までに時間が取られてしまった。個人を特定できる回収方法にもう一度戻すべきか、ほとんどの人が期間内に実施できている現状もあるので、回収の数値目標の変更も含め、バランスをとりながら進めていきたい。

学校評価委員会では、評価基準に「0」を設定することや評価「1」の人がどのくらいいて、どのような記述があるのかにフォーカスする（改善策の手掛かり）のも一つの方法であるとの意見が出された。少数意見と大きな課題とのバランスを取りながらなるべくオープンな話し合いを設定し、改善へつなげていきたい。

最後に、成果と課題の設定方法については、ここ数年同じ基準を用いているので他校を参考に、変更することで、新たな成果や課題も見えてくると考える。（質問項目の変更や精選を含む）